大和紀

第十六

高市郡

2906
572

ル 4
4873
12

2906
572
4295

昭和
(42)
1873
巻 12

奇瑞

思永

和州舊跡幽考目録

第十六卷高市郡

向原寺 付金銅釈迦の事
石川精舍 付跡部石佛○惠便法師○三尼の事
大野岳塔
元興寺 付樹葉家○真神原○笹田○釈迦銅像○縫佛○孟蘭盆會○
奥上○道場法師の事
豊浦宮
真神原

38- 0069

飛鳥寺
伴村○阿田村事
城上宮
飛鳥井
七瀬淀
飛鳥川邊行宮
蘇我馬子家地付桃原墓○東条龍山寺
難波堀江
清隅池
石川百濟村付大百濟大井宮
飛鳥川
神名火渕
飛鳥板蓋新宮
飛鳥都
遠明日香宮
劍池
孝元天皇陵

櫟葉井
豊浦村の社
八釣宮
蘇我稲目家地
八木村付曽我橋事
故傍池
神武天皇陵
安寧天皇陵
橿原宮
懿德天皇陵
櫻井
雷岳
矢釣山
大官大寺
畝火山付神社事
片鹽浮孔宮
神八井耳命陵
三山
國源寺
久米

久米川
人〇寶塔事
益田池碑銘
武内宿祢墓
輕
輕曲殿宮
輕池
陵
佐味隈
欽明天皇陵
久米寺 付久米仙
益田池
屯倉
鳥屋村
輕境原宮
輕鳥明宮
法輪寺 付藥師事
檜隈川
檜隈盧入野宮
檜隈陵上大柱
天武天皇陵
文武天皇陵
堅塩媛陵
子嶋寺 付報恩沂弥〇真興法師事
檜隈寺
鷹取
奈良坂寺 付龍藏權現事
蘇我川原
太玉神社
持統天皇陵
高市宮
延喜式神名帳
倭備姫王陵
檜隈野吳原
勾金橋宮
岡本天皇陵
高市社 付神階事

和州舊跡畫考第十六卷

高市郡

向原寺

或和尚元和尚中乃遠作の書に向原寺の名を曲川乃遠はりとゝ云義よきゝのべたゝわ向原寺を西川乃遠はりて後石川より流れて石川乃遠はりて後石川乃精舍とゝひけるや又日本紀に守屋の大連燒拂ふ精舍とゝ向原寺石川精舍大野丘乃塔同所乃やうもあれど御乃後乃人はたゞ云ふべし

人皇卅代欽明天皇十三年十月百濟國乃聖明王の沖作ひとして西部姬氏達率

奴唎斯致契等釈迦乃金銅乃像一軀幡
蓋経論若干乃巻を欽明天皇にぞ送り
奉りけるその表讃詞
流通礼拝功徳云是法於諸法中最為殊
勝難解難入周公孔子尚不能知此法能
生無量無辺福徳果報乃至成弁無上菩
提譬如人懐随意宝逐所須用尽依情此
妙法宝亦復然祈願依情無所乏且夫遠
自天竺爰洎三韓依教奉持無不尊敬由
是百済王臣明謹遣陪臣奴唎斯致契奉
伝帝国流通畿内果仏所記我法東流云
天皇叡感ありてぞ給ひしくあがめ羣云
臣に勅して西蕃より得たりし仏の法
甚だ殊厳し拝礼なさむやせまじや羣
臣丈我国は天地社稷乃百八十神をもつて
はまる給ふべきを他国乃神をおがみ給へやせ
報奏しけり其時蘇我稲目宿禰ひとり
諸国もみな尊敬拝礼をまもりけると奏せ
給ひければみかど乃御のりなんと奏し
さりけるのあまりには稲目宿禰に仏像を授けり
ね安供養させよと稲目よろこびて小墾
田乃家に安置し向原を浄寺となしけるが
終に守屋大連寺を焼きて仏を難波
の堀江に流しけるとぞ 日本紀 此向原寺は
本朝寺院乃はじめなりといへり 釈書
向原寺ハ蘇我稲目宿禰よりはじまり蘇

我馬子宿禰らくゝ石川乃精舍と可
守屋大連焼きつゝしの後元興寺とな
をるなりや三代実録曰建興寺代蘇我
稲目可連建ゝ興寺ハ元興寺乃異名
や又三代格曰元興寺を仏法元興之場
聖教家物之地也ゝとゝ和ゝよ同地寺号
異説

石川精舍

也林抄云豊浦より西四十町ばかり
蘇我大臣乃領知乃内ゆゑこの乃
家乃東をとりとゝく今乃るゝ石川
を西ゝ豊浦を東よりゝびゝ東
よりくゝ元興寺の師ゝ草堂

石川精舍を人皇卅一代敏達天皇十三年九
月百濟国乃使鹿深臣弥勒乃石佛一軀
又佐伯連佛像一軀をゝて来朝ゝり蘇
我馬子宿禰ハ二軀乃佛ゝ礼ゝをなし
て播磨国ゝ法師乃僧りこゝ
人ありゝり恵便とそゝをる本を高麗
国乃人なり是ゝ礼ゝをゝく法乃師と
ゝざめ司馬達等乃むすめ嬢と云ゝて
ゝ十一なるとゝ礼ゝて善信尼とそ
ゝをる又ゝ弟子ゝて漢人夜菩乃
女豊女ゝらそゝて禅蔵尼と云ゝ錦織
童ゝむすめ石女と尼ゝ恵禅尼也
ゝゝ三人乃尼ゝ仏法ゝ

海に投げ捨てしかば佛殿を家乃ひじ乃方よりあ
へう乃石佛を安置し三人乃尼ら乃
あひて大舎とりてはなちあひしよ司馬達等
乃飯のうへよ佛舎利現じ給ひしぞう
うまこ鉄馬子宿禰よ海へ投せうり馬子ら
ば試ぎ投あうじやく鐵鎚をうりてあ
ぐらよりうちうりしが鎚乃とぐけやぶ
て文よ舎利を見ぶ給ぞ又水よ入て
見ぬまぐ舎利あうのまくよう紀之川を
給ひうば見うりうく馬子宿禰池邊氷
田司馬達等佛法をたうとみとこうる
し馬子宿禰又石川乃宅よ佛殿を造り
紀佛乃道見うりうぐ海りけうとぞうこうし

大野丘塔

石川同石川の精舎をうりびよ塔と
もふ守屋焼拂給ぞうとう
大野丘乃塔を人皇卅一代敏達天皇十四年
二月蘇我大臣馬子宿禰達と司馬達
等乃得うりをる佛舎利を塔乃柱頭よ納め
をうるをうあうりうよ馬子患疾しをう
又國よ疫疾ありて死をう人はうられ
ば物部弓削守屋大連と中臣勝海大夫
奏しをるを先帝ら階下よんうりをり
てうく乃やまひ國民よをえ御うをりふ
よをうく蘇我臣乃佛法を行ぬうよあ

殺生や帝ちうあくこそば佛乃道に背乃断りべ
わし乃宣勅とうきを守屋みのうら寺よりて
塔に火をとふしゆをとけ佛像佛殿を焼
そうひをぐうそ乃焼ぬるし佛像を難
波乃ゆり江よりあげあきらを日一天よりを雲
ちくちくに風吹西ちりまりの三人乃石
とらび出し三衰に枝に火をとり海榴市に
亭よりあちうり枝天皇を大連も藤と
ふもりやを焼ひしゆ橘豊日皇子よみと
のりあり藤やみくに死をるも乃国よりそれ
しゆんその藤乃ら藤乃ら平乃平乃を焼ぐく
海ちうれそうれ泛ちの枝老若
霸相うりて兵乃佛像を焼なるの罪

ゆんうをりを六月馬子蘇我臣
や海ひ出ちうちをはんへともをそ乃
日ゆうちうを三寶乃ちうをもんをそう
たをそうをむ馬子命じ佛法をたうとみちうよ
り後汝ひうり佛法をたうとみちうよ
余人を海へ乃事をうをを三人乃
戸を馬子よりうへしえちを焼ひうび馬子
ひちうをちうをひ精舎をそうを僧養ひうり
紀を辛乃八月乃天皇崩ちうり焼ひ
ちうり日本紀 敏達天皇十四年ちうり延寳七
年迄凡一千九十ゆ年欲

元興寺付樹葉家 真神原 苫田

元興寺流記曰大野岳乃北とちく

或抑曰大野岳乃ゆは豊浦寺乃東仏
門やとゝく元興寺は石川精舎大野
岳乃塔を焼そゝひ後乃建立とゝ
りゝ今乃るゝ所そゝりゝ草室よ
鞍作乃作そゝまゝ霊仏御膳よ
ゝ之のゝのゝり給ひしをそへそゝく
まゝり紀礎石所ゝよみゝわゝりゝ
元興寺又乃者ゝ飛鳥寺又ゝ法興寺
八大樂寺又ゝ豊浦寺又ゝ橘寺
ゝりゝ法頂礼記釈書縁起等よりゝ
史法興寺乃盛觸ゝ蘇我大臣馬子
らしゝより諸皇子群臣等代ゝめて物
部守屋大連を滅しゝん乃謀あり則聖徳

太子代大将軍やゝて攻ゝるゝ物部守
屋大連を迹見首赤檮誅しゝりゝ
乃誓願より聖徳太子八四天王寺代作ゝ
給ひゝん蘇我大臣ゝ飛鳥乃地めゝて法
興寺を造営ゝ乃初ゝ也卅三代
崇峻天皇元年飛鳥乃造営乃祖の樹葉
乃家とや抑りて寺地とゝり山形ゝ飛鳥
の真神原又飛鳥乃苫田とゝめゝり御宇
五ゝ十月大法興寺乃伽藍堂歩廊ゝ
ゝり此四代推古天皇元年正月仏舎利
を柱乃礎乃中よりゝ納ゝ塔成就ゝり御宇
四年伽藍作ゝりゝ行ゝ恵慈恵聡の
二法師を招しめ給へり日本紀 抑四門ゝ南

より元興寺北より法滿寺東より飛鳥寺西より法
興寺乃額をとりけるまことそりは紀推古天皇
四年より延寶七年迄凡千八十四年歟
▲釋迦如來を人皇卅四代推古天皇十三年
四月帝丈六乃銅像をつくりより繡佛作るべし
一軀をつくり給ふと鞍作多と佛工あそ
ぶ乃大興王作るへきあり御宇十四年佛成給ひ
を献ぜ黄金三百兩
作まことも元興寺金堂乃戸より佛像たつ
くりそれば納めえん事をもとめ工人
とも堂の戸をこわらんと議しそり
が鞍作鳥工をこまみ

まへなつ紀光銘曰推古天皇十三年歳次し
巳四月八日戊辰以銅二萬三千斤百斤金七百
五拾九兩敬造釋迦丈六像銅繡並狹侍等
ゑ延寶七年迄凡千七十四年歟其後斯明
天皇三年須弥山乃ゑ紀寺のあり
て盂蘭盆會あり日本紀本朝乃ゑ
紀ゑん天皇六年より一切經を讀誦
ありしゑん天武天皇
海ゑ亦帝の玉御安和ゑ乃ゑ給ひ
ゑ孫寶を施入あゑ持統天皇元年より天
武天皇の御衣をもて裳裳ゑ人別より
一領をを施し給ひ紀日本人皇五十四代
仁明天皇美和十年ゑ油一斛正税三百束を

施入申〳〵て六月十六日 萬死舍十月十六日
下燈舍垣例〳〵て勤修をゝこなひて宣下を蒙
る 後日本紀 すゝ是佛法寂物乃寺より傳きたる
也 貞觀四年乃官符より詞
此寺佛法元興之場聖教寂物之地也〳〵去和
銅三年帝都遷平城之日詣寺隨移伴寺獨
留執庭更造新寺備其不移間所謂本元興
寺是也 三代格

▲寛上ゝ五十八代光孝天皇仁和三年十二
月晦日也其後再興あるゝ事も裏破ゝて
名のみのこりまるゝ乃世乃再興乃時ゝ
為う

▲元興寺より道場法師とゝ申すあり尾張

國の人なり敏達天皇乃御時とゝや法師の父
母乃水死申の世をんとせ〳〵るゝに兩ゝ神
鳴落ゝり利其ゝ〳〵ゝ和さる紀も乃〳〵
あそ御乃劍あ〳〵ゝゝらるゝとゝよゝゝづち
我とあゝを事るゝ法師乃紀たのこ
うゝ申せをんゝ楠木乃舟より水をまゝへ竹の
葉とうゝべてわきよえさせゝとゝゝ申ゝバ
やゝ〳〵申乃ゝ〳〵ゝゝゝえさせぬ雲より
の中天よそのゝりはゝゝ雲より
うゝりゝよそまゝゝ和るゝ和のあを
尾張ハうゝ乃ゝ〳〵ゝあそゝりまるゝ
中あゝて八方八尺乃石をやまゝゝよそるゝ
けゝを後元興寺より作ゝ入てありまるゝ鐘

樓より鬼ありて人ととれ往ようなる行ぐ鬼紀
やうもあるべしげりきりはは山口〳〵はこの乃びやうに
行きまりよりは鬼乃ふるてりしのばりこはその鬼
のり疫鬼ととりてうらをもひとさりぐこ
ハのありりぬをくくはを鬼をあげ行りり血を
きくくひくきづは行しよむりりしこ心ありし
人乃古墨あぞ入あ紀鬼乃くみハ實義より紀
めくく伽りけりとりり赤寺乃田紀行てをを
けるよ水と海乃ををうんとをあんくさ海さ
げて伽をバ寸余人ぐりきくくあるひりべ
紀鍬がらとをりりて水によきくくるりりバ
人あまくきくぬ紀くく捨てりりはりりばそ
立百人ぐりの里してひをきりつ鬼紀行あくく水にを

世紀けりあぞ人〳〵あげをりきくくりりもを
てげりくく行よ寺の田を畑日あもりさ海行
里りり其後りの疫紀行りりぬをこを世乃人道場
法師とぐひんをを紀水流

万葉

直神原

怪文忌之伎鳴言久人毋後尓畏伎明日香乃
直神之原尓久堅能天津御門とりあも
はりぐめ後ひくく神はりぐ磐隠座中略白
砂乃あさ乃ころも紀垣安乃法門乃原よ
あるあはを日乃法ろ中略百濟乃原
よ神葬葬伊座而朝毛吉木よ乃宮を常
宮とくあくきくく神乃海めくきびまり
海を

万葉 大伴直神之原示為る雲とゐなりそ家もあり 食 集
登目前枕 雖多風ふけども今朝の間は直神の原に雲なたなびきそ

豐浦宮

人皇卅四代推古天皇と欽明天皇乃皇女用
明天皇同母の御妹にして敏達天皇乃后
あそばしゐ給ふる敏達用明崇峻乃三帝
の後豐浦宮にて即位遊ばし給ふ厩戸皇子
と皇太子となり給へ摂政よ承り給ひ
紀御宇十一年日本紀に繼田宮より遷り給ふ
天後皇居に絶し給ひ給ひ寺となりたる
なり豐浦寺乃名あり元興寺
の末寺なり豐浦寺とよめる
三二 のぶらや豐浦寺とかける類ひとつの家略

豐浦寺は豐浦乃郡乃郡より獲乃郡乃郡より牧自郡と郡と 長明月記

法隆寺

捨芥抄云元興寺と推古天皇始て遷
給ふ法隆寺

法隆寺又本法興寺とも
うつり世ともうつりわたりて寺乃ひと数ならずて
名寄 ひとたびは光をそへし朝日まつ川桜乃寺の法乃灯
石川百濟村 付大伴村 村阿田村

石川乃百濟村と敏達天皇御宇ところ
の日羅と申ひ男士来朝より日本紀年氏
伝などよ多くあり日羅死去して後其
類素子等と石川よ居住しめ給ふ
あまてど大伴乃連議て一族よ
いうでをそしめ給ふと石川の百濟

村より水平等と石川の大伴村よりあめ徳
爾等をうゝめ〳〵百歌乃阿田村まぐと記
けり 日本紀

百濟大井宮

是も同所なんうにぐうかまくら
人皇卅一代敏達天皇元年四月百歌乃
大井より宮作りうり 日本紀 池田宮 古事記
もんへうり延喜七年造九一千百八年歌

城上宮

類聚名寄大和國とうく
磯城 万葉 磯城乃日本國は何方御食可津 紀
毛無城上宮尓大殿とたうへまたつて 同
百歌原よりゆふ月はうて朝りゆ人

木乃上の宮 常宮 和

万葉 花鳥川 鳥川の上瀬より石橋わたし 畧
瀬よりうり橋わたし 同
神名火山乃帯よりまつ 同
よやもらあるも 同 明香川石菱ばなぐ 万葉
明香川はたりうるやど 学文抄歌
中くよりまつ 夕安百首
花香川波の花そ咲 千五百番
久〳〵そうあまと弁里乃 拾遺集草
花香川淵瀬もとゝぬ 拾双子詞
花香川淵瀬はけぐ 同
あつまとるもたなぐ〳〵もの

為世葛城川とぞ云ける和泉葛城
寺のかたより葛城渡乃坂江よりも近くして
よせをぬれもあるべきなどあるべきやうもあ
ぬ不審なれども乃峯よりは日香乃川のとよめるを
はよ神名火山を三輪山なるべし
猶たづねよ如東よりぐるくるまくる三輪
山を式上郡よりあり又は日香川を葛城
ぬ葛城山ハ葛城乃山とよめるをはよ
ハ葛城乃郡也や赤る岡山乃橋葛城
川よりぐるくるよめる紀ぬ
磯城潟乃高岡山乃たれ乃ぐれ

未一紀を毎年のもれし但乃ぐる乃山
乃たれ奈良乃葛城川よりぐる紀よ
めるやとは人は正徹和尚の寄せ事れ
の葛城川ぬ紀ぬ磯城潟と
ぬ後乃人あ紀ぬ事なる
葛鳥 舟

催馬楽

証秘抄云大和国葛城川のあるやや
葛城舟よやとり舟べし
みあくちをよ
神名火洲
山遠乃やあるるあ
大納言大伴卿在寧楽家思故郷歌

（万葉）
ものゝふの八十とをとめらが紅の玉ぬきかくる
七瀬の淀を
（万葉）
白香川の清き瀬を
（内裏名所）
難波川七瀬の淀を
（元二）
春の日の今幾日とか難波川七瀬の淀の
（順徳院）
月見
（家隆）
難波川の清き淀
（内裏名所）
難波川七瀬の淀を
（日本紀）
難波川の清き淀
（日本紀）
難波川の清き淀

人皇卅六代皇極天皇二年四月の比宮より難波の板蓋の新宮へうつり給ふ
（日本紀）
又卅八代齊明天皇元年十月難波の板蓋の宮をすて給ひ皇極天皇の重祚也はじめ難波の板蓋宮へうつり給ふ
（日本紀）
齊明天皇元年より延寶七年迄九一千九百

難波川の清き淀行宮

人皇卅七代孝徳天皇元年十月都を難波へうつし豐濟宮と名づけ給ふ老人等相ともに難波へ行てうつりて春より夏へかけて難波の都うつりの考なり同二年十月豐濟宮へうつり給ふ考なり同年七月たゝ
ちに難波へうつし給ひるむ事をねがひ給ひしかども勅許あらざりしかば
皇后皇弟達ともに倭の難波川の清き淀の行宮へうつり給ふ天皇
皇后うらみおぼしめして御位をすて給ひ
るむと山崎の宮へうつり給ひ紀の寺
正月難波の方へうつり行十月

天皇はやはひおはしてわたらせ給ひしかば皇
祖母尊間人皇后太子皇弟なとをともなひ公
卿等難波宮に越給ひしが後天皇崩御
なり給ふ十二月大坂磯長陵にはうふりし
其年皇太子皇祖母尊倭乃川辺
行宮に還幸なり給ふ 日本紀

飛鳥都

万葉
玉くしげ絶れ果なくありけれどもやまだ(?) 人丸
むかし明日香乃ふるき都やまとは

蘇我馬子家地 不志れ人なるぞ 後略

蘇我馬子乃家を飛鳥川の傍にありて
庭の中に小池をつくり中に小嶋をつくらせ
てあひそうましより時乃人嶋大臣とぞ
いひける推古天皇卅四年五月に薨去く
桃原墓に葬むるなり 日本紀 今此桃原墓は
河内東条石川にあり東条龍山寺ハ蘇
我大臣乃寺也 古今目録

遠明日香宮 不志られ

人皇廿代允恭天皇遠明日香宮にして御
位なり給ひし此宮によりてまする 古事記

難波堀江

玉林抄曰豊浦寺乃東の仏門乃南を
ひがしに飛鳥川乃西乃入江是なり
世のものがたりのあわれり
難波堀江は守屋大連寺塔を焼ありて仏
像を此川にすてありしといふところ

く底のぐりもあらげりしべ海よりあ〜へ
浦よりとらそく或ハ豊浦也ひ又難波
江とも〜ひ江ハ〜へしるり玉林佛像を拾け
ぬく入江ハ摂津國ろんう又義光寺縁起よ
橋津國難波浦あて佛をとりなるとこく
ぬぐ〜〜後乃人あれう
ぬぐ〜〜賞賜よりぐめ
うのぬそうまべし海陵寺の旧説大和國難
波江変定よ伝きこばうぐひもるれもれる
ぬんう

勅池

平氏伝曰高市郡難波勅池ろく不
ぬ考うぐ
應神天皇十七年十月ふ池をとり難波勅池と号

せる日本紀 ▲舒明天皇七年七月ハ池よ一堅紀よ花二ふ
さ乃蓮紀咲り日本紀 ▲孝徳天皇三年六
月一堅よ二川乃蓮乃蓮華咲けり豊浦
の大臣ぐ将ぬれ瑞ありとて金墨紀より
て大清興寺の丈六乃佛よ塗ぬる日本紀
万葉 沖佩平勅乃池の蓮華よ清水乃行清
ぬ〜わのうちあ時よあるしとあひ〜る花
沖莫寝等母ぬ巨勢友誉情清陽の池
の池乃底吾ハ忘乃びぞ〜ぬあまでよ
万葉 清隅池
仙覚抄大和國と乃〜〜り
我心清ぬ〜〜池の池乃底都ぬ〜〜ぬ〜〜ぬまで

摂州二郡
みなもとの三ちよりもとのぶ　孝元天皇陵　のぶたかの池

孝元天皇八陵大和國ある市郡鈎池溜上陵
や延喜式日本紀　赤鈎池中園上陵古支紀　御宇五十
七年　五月　溜池　五年百十七　開化天皇
五年二月より山陵　延喜式日本紀　延寛七年
迄一千八百卅五年歟

榎葉井
豊瀬村乃民屋のまりへよりてしの
一乃井をとりてこのぼうりよりこれ果そ
の為ぶとして　清水ながれまり
堂前　近溝乃溜とよふ
堂前云宮内卿有賢朝臣時乃殿上人七

八人あひやとをひ〳〵大和國うぢ〳〵紀乃〳〵人
あうびよりゆれる事あるとき時あれ和よあ
まてる堂乃堂乃堂をやう〳〵ちかくなる
ばあや〳〵てちかくなるあれあふんどみとひろれど
まてる人もありきりうあいぐよ事乃
りうよ鬢髪ちろ紀おさる事りゆ乃
くりこれ〳〵もやうあ〳〵ちぐひ
きぐ是をばとらう乃寺とぞやとふん
ゆ〳〵紀事やとうんもく〳〵感じてけるあ
ちう〳〵山道よ元の大井とふよ井やあ
ちぐ〳〵よみれあ〳〵わも伯〳〵ねゆし
跡も今よ伯りとて堂より西〳〵紀ち
ね紀よゆ紀〳〵ちへ〳〵れぞ人〳〵興ふ入〳〵

やうでうあよむまきゆくうぢう紀やゆふ奇物
十丈うくひくひ山おくれよくねどもねぬぢく
うぢをきりくれぬぢぬぢぬぢえねぬ年よあひく
ゆりあびくあゆりてけりよきるとぢぐ
うぢう紀乃寺の前ゆや豊浦寺乃西ゆ
やえのき井よ白玉きろくや海ゆ社玉きぐ
くやとくとむぢとくぢとんぢきてくよ
ぐけうくんやまいへ社ぐときせしやをとん
どくとくむどをくとくむどやくとんど催馬楽呂
丈木
うぢくうや豊浦寺西よあれえんた井よこて白玉きづく

桜井

桜井樋葉井同井異名歌後乃人さ
ぐうよのきうぢ紀べし

續日本紀乃歌よ
葛城寺乃前よあれゆや豊浦寺乃西よあるゆや
をくんやくとくとむどけうくうけ井よ白壁きぐ
くやよ紀壁くぢやくやくやくむやくとくとんど
きうをば國ぐけうくうけんくうけゆや五乃家社ぐけう
ゆりやをくやんどけくくとんど

豊浦村社

推古天皇を祠まつりこ乃天皇豊
浦を皇后とせけを稲ひくばけも作りをんこの

雷岡

飛鳥川乃東のたくみあり倭よ雷村

ちくこの乃雷寅よありをれとるん
舊傳曰雷岡ハ雄略天皇の御宇小子部の

楯輪やしろより帝まちのくにを海つる
人のまとゐ大安殿より海つ乃ぐり御ぐ時帝
やしろとそこの物まを海つくれば楯輪を
射面せさせ給ひうんきあれ屋もの御り
ぬ雷天よこの帝り地よりこゆ乃ぐよ
雷神とやりやめくくそくれよりの楯輪
宣勅と蒙りて馬を弛く阿部の山田よ
江豊浦寺よをひ行屋宣御り海へく
勅命ぐくとよびこうく弛ぬまども
碓とてやむことなる武弛行く我朝
乃屋宣より勅命御行行こそやとらびけ
行よ雷神より豊浦寺と飯岡乃間よ
ちくく嚴ちりりり楯輪星を得くこうり

うくやを養しぬまとは叡慮海まれよ雷神
貝とふこうこの鱗をとりてく異光御殿を
のくやりきり帝をとりまれりぬ内をくく
鱗帝宮武代し遣りとこの入内世給ふ乃お
ちりる西代雷乃国とそびひけれ
万葉 とべく武神ふ海をば天雲雷ふ入よいり給
同 とる武神ふ世ば雲隠伊香立山よ姿座

八釣宮

山田寺やと大原乃中路大原より四
町ばりの御倍より村とふ
人皇廿四代顕宗天皇逝給八釣宮りて雨
倍海く紀 日本紀 三月上巳乃日曲水をちめ
内世給ふ 正統録 山宮りて落出り給ひし

なり 日本紀

矢鈎山

万葉 矢鈎山木末のくゝぞちるもゆるまで雪とそ降れる

同 矢鈎河水底絶ぞ行く水乃上乃

蘇我稲目家地 石舞台

蘇我稲目乃館と和別八鈎河の蓮 万葉 たゝ

大官大寺

僧よ謙堂やしろ乃ふ世ゆ一宇ゝ礎石あり

つゝよりつゝぞ作りしう乃講堂の跡

なまこばしやうゝ八ふるんその礎石種

六尺ばかり柱は四尺あす又ありよ

播乃礎あり心柱をゝ石ゝ乃ばかり

乃ものかをあゝゝ天香久山より十

町ばかり南やゝ又攝集斷通要曰大官

大寺乃西の南側川乃ゝりありとゝく

山石ゝりまろう乃南あり後人ばかりよ

ゝゝおくべし

大官大寺を舊名百濟大寺と号して十市の

郡よあゝゝと天武天皇二年よりる市郡よ

うゝ封邑七百戸公田三百町利稻世万東

と絶し北へ行き大官大寺と改号せ給

ひ後十三年を過ゝ帝はやまひ給れ

りゝわゝせ給ひ東宮草壁皇子流

王臣百官人等とゝ大官大寺

よ向うで給ゝゝ玉體安平とゝ乃つと給ふ

もし定業きんよ三年乃寶幾代のべ

世を捨へゝ乃誓願完しうして帝端麗絶
倫とおりゝ給ひてゝ世を捨ひより遠佛寺建大會又あり給ひて
捨ひゝご三年乃誓願完しうして麗絶なる御よりの藤原宮あり給ひて落成
とあるゝゝめ渋鐘紙あるゝゝよりゝ鐘乃
絶入千僧乃齋會あるよりあるゝ記録敬世ぞ偉
なる文武天皇の紙ゝゝゝみ世ゝゝ海て
九重乃塔紙ゝゝく絶入うぞ紙ゝゝ五
百僧の會をゝゝめ給ひより天智天皇遷
感海ゝゝて文武乃像をゝゝり給ひうんの
心願給ゝども良工をもとめ元給ひぞ

うの紙ゝゝみよひとり乃御門海ゝて
萬佛八化人乃ゝゝる像あるゝ文よりゝ
乃紙よりあるゝぞ良工あるとも作乃頭ぞ
うのゝゝ者や畫師とゝゝも丹青乃あや海
ゝあるべしゝゝ萬佛乃前よ大鏡とゝけち
映像と形紙あるゝ圓よりあるゝぞ造よりあ
ぞ其實と觀それバ法身乃理や出愛光て
大法とゝけ五百僧代養あるゝ後元明
天皇相ゝゝて添よ郡ようゝし大安寺
や号し給ゝり緣起日本紀新書水鏡元
ゝのゝゝ

八木村　付曾我橋

為世八木村よ偽よそむぞう乃橋く

聖徳太子班鳩宮より西へ
曽我川を渡り橋を八木乃里に出て
橋宮より西へ畝傍山
心木村乃南一里ばかり畝傍山と
山と山の
万葉集巻十六
里人の打ちなびく春の来ぬれば
雲居なる畝傍の山も
家持の家集
▲神社一座神功皇后
毎歳二月朔日初子日
山乃ほとりより出て神畝傍山の
とり雲飛山と本名
山と本名
王林抄

畝傍山
畝傍池
推古天皇廿一年より初て
日本紀
畝傍池と号
帝王編年曰畝傍山乃ほとり今ハ
四条村乃北皇宮の跡
人皇三代安寧天皇二年都を所鹽より
ハし浮孔宮と名づけ給ふ
日本紀
延喜式七条坊二千二百廿六辛歩
神武天皇陵うねひ山乃うへ
神武天皇ハ大和国高市郡畝傍山の
東北陵なり
延喜式
又畝傍山乃ほとり白橋尾

上陵ともいふ（古事記）御宇七十六年三月より
橿原乃宮ありて御陵ありと御年一
百廿七歳（日本紀）又御年一百廿七（古文）延寳七年迄九二
千二百六十三年
神八年耳命乃陵ハ大和高市郡畝傍山
乃ふもとにあり（延喜式）
綏靖天皇四年四月
（日本紀）
御陵ハ畝傍山
西南蔭井上陵ありて（延喜式）御宇十一年
延寳七年迄九二千二百十七年
安寧天皇の陵
うねび山乃ひがし方
人皇三代安寧天皇ハ大和國高市郡畝傍
山乃西南蔭井上陵ありて（延喜式）御宇十一年
十二月御陵ありて御年五十七（日本紀）又
八御年四十九（古事紀）延寳七年迄九二千
二百十七年

三山

天香久山畝傍山耳梨山
是ハ三山とも
（万葉）
高山は雲居たなびき
畝傍ひ山は神代よりかくにあるらし
古も然にあるらし
ひさかたの天の香久山
ひさかたの天の香久山
（近江宮天皇）
反歌
同
高山と海とは山と海とのごとくいにしへ

橿原宮

南世根原村之畝傍山乃麓にして
葛上郡より高市郡の内のひな
ゝ山あり畝傍山よりは北にみやこ
なるべし万葉集よりねひ山乃橿原
とよめるなりて山郡よりは高
文橿原宮を人皇乃ちゝめ神武天皇國
ゝ山はゝ北にあり大和國うねひ山乃東
南乃橿原之國乃墺區を是ばゝ宮ゝ
ゝゝめて定めけり世俗ゝ己未辛三月なる辛
酉年正月朔庚申御ゝてえひとりの妃の
媚鞴五十鈴媛命を皇后とす紀日本
山ゝ天照大神乃靈八咫鏡なるひよ草薙

劍を大殿よりわゝめたまひて
給ひゝ皇居神宮にゝよりゝ北島准后抄
ゝれゝる天児屋根命乃孫天種子命又
天太玉命乃孫天富命祭礼を行のゝど
きゝり壬寅年神淳名川耳尊皇大子
位せゝ崇神ゝ又宇摩志麻治命内物部
辛酉年ゝ道臣命米用部をひれゝ御
宮乃門を守りゝ紀日本
天孫降臨ゝゝて神武天皇元年庚辰
一百七十九万二千四百七十余歳よりまり
又ゝきゝり延寳七年庚辰二千三百吹
九年欽
万葉
壬午次副次乃山の橿原乃ひきり

あきつしまやまとの国乃可之波良のうね
ひの宮に宮ばしらふとしりたてゝあめ
のしたしらしめける　前後略
わけて称やそめるむまさに九畝傍山乃家持
国源寺　此説ハ所ゝにみえたり
国源寺ハ人皇六十四代円融院乃御宇
天延二年三月十一日横雲乃光ひとせ之
わたるかたは検校泰善法師高市郡畝
傍山乃東ふ乃道路にしよりしとそや
流きさる菴乃巻善法師に海えみて
師家めして国家栄福乃一乗経を常
さよ移る是人皇第一乃国ふや常ふ
家にしそ縁ねきしとて潜がしくせ給ひ
しより恭善法師毎三月十一日此所にて
法華経講しきり同御宇貞元二年当国
乃守藤原国光此所に堂を建てゝ寄進
方丈あらびよ堂塔建て観音菩薩を
安置しまつりしより

懿徳天皇陵　多武峯略記

或記ニ久米寺乃東北にありといへり
人皇四代懿徳天皇ハ大和国高市郡畝傍
山乃南纖沙谿上陵なり　延喜式　御宇四
年九月崩御なり給ひしが十月ニ此陵
にうつしまつる　日本紀
百廿十六年歟　延宝七年迄凡二千

久米

久米ハ神武天皇二年道臣命功あるにより築坂の邑と宅地を給つ又来目部を以てこれをおさめしむ部傍山より西の川迄を地名猪ノ口より来目邑乃名あり日本紀

久米川

水上たのとり山より出くいねい乃方よりあのくりゆき日本紀曰一事主神雄器天皇御采目水辺くに至り猪ノ口にて遇ふとうくにつのまたくに久米川を長谷乃山に同所うにつのまた

文本

ども長谷をたちてよりあをぐくに至り御特ちの長谷の久米川よりひと言ちて海そ有穂

久米寺

部傍山より七八町南にあり

釋迦山東塔院久米寺ハ久米仙人建立せしなり本尊釋迦如来ハ米目皇子の御願なり山皇子ハ聖徳太子乃御弟なり

玉林抑久米仙人ハ米ねあらふ女乃姿乃美しさにまよひ紀を見くに通とうしるひ人間より海へつるぎ物ぐらを見愛よみをなりてねまバ仙業をくづくまたりそ後仙練して天に昇りて仙人安曇乃仙人

あるしるしありて寛よをみけるとなり 秋書

▲塔ハ善無畏三藏養老年中ヨ来朝ありて采女寺ヨ二年住給ひしゝ多寶大塔

ゑるさ八丈あり建立ありそ南心

天乃鐵塔乃事分のうたゝりそ乃

柱乃下ヨ仏舎利三粒大日經七軸を納

ゝうまつゝ 佛法傳通記 ゑゝ後延暦十四年弘

法大師義乃岩ありて久采乃道場東塔

乃下ヨ埋て乃七軸乃經ゑゝまつり

或曰旧名采女寺を弘法大師久采寺と

改 書紀 字ちゝまつゝしゝ

益田池

久采寺乃ゑゝりヨ記かゝ山とゝふ深ヨ

益田池乃あるところのふのあれ

ヨゑゝ西ヨ行くゝ池ゑり材ゑふ

あり村老ゝひ行くゝこの乃池の樋の

口ゝ伏きバ池庵乃名ありとなり

ゝふヨ是ゝり南ゝ里ゑゝりゝ刈て

碑銘ゑよ人ハ石今ヨのこれゑ池

庵村ゝり家ゑゝむゝゝ池ヨ伏り

ゝん尤廣ゝ乃池とゝまつゝ地ひ

ゝまつゝり性靈集銘云むゝ八廣

ゝ乃池ゝゝりゝゝのゝゝ今わゝのヨ

のこまつゝ池乃ゝヨ詩海寺詩門寺

詩益寺あり右ヨ琴彈原白鳥陵

あり南ヨ大鳥墓ゝ皇大后先大枝

氏乃墓平群郡にありかつ畝傍山に
良に来眼寺あり押に武内大臣の霊廟
あり檜隈川ながれたりやまとくにふに
む先大枝氏乃墓ハ延喜式に平群郡
にありといへども平群郡にハにけ池
より西かたにありとなり南とどへとお
ぼつかなし性霊集に南に大墓あ
りとこの紀ならしハ別の詳なるべし
益田池に弘法大師碑銘を立給ひし
其詞性霊集にのせたり此和乃
旧名を村井とよびけり地ハ漢直乃旧宅
なり嵯峨天皇日照に田乃ためにこれをほらせ
給ひしハ弘仁十三年十一月前大

和守藤原朝臣縄主紀伊守良岑等ひとつにこころ
志紀池ちかき所に紀伊へ志り池のさかへ
紀巻閣御仰くたりしかやまく物評あり
より縄主良岑等真円律師にわかちて伴
国をくり大伴氏参議国道私刑大守藤
原仲池乃検校職に撰そうさまをたり或人の
日日照とよびゃ田地益乃切ありしより
益田池と号そうさきけるとなり 性霊集 延寶
七年より九百五十八年歟

夫木 かくさの益田池のほふかねつるかのみぞあらん
内裏名所百首 順徳院 思ひの益田池乃水のこまくにふ
師兼千首 なかおふ池乃底もかき消えもや益田乃のもとかれて
草根 なぞうしも流石に世をも雨たれぬ益田の池のかたさよ

益田池碑銘

碑銘八面にして臺中にあり石質
脆し碑の東西三丈二三尺南
北二丈五三尺ある方尺りや
ありそしを頭より立尺あり方
ありて二川あり碑の紀年三四尺
川乃宛乃中間より尺立す乃ぐ
てとりこりそ乃ぐりるをるけ海
なりうみて本紙ありをるよひや
しこの乃碑銘とをへをる碑しんり

大和列益田池碑銘并序

東大寺沙門大僧都傳燈大法師適照金
剛文并書

若夫感星銀漢下灑之功深湖水天地上
潤之德普故能中斡固之而欝茂蠢卬類
之而長生至若八氣播殖五丈陶冶北方
之行偏居其最扶之為德遠矣哉皇矣哉
粤有益田池兩尊皇子之列八鳥初導之
國地是漢諳之舊宅号則村井之故名去
弘仁十三年仲冬之月前和列監察藤納
言紀太守未等慮九陽之可反歎膏腴之
未聞占斯勝處奏請之綸詔即應爰則令
藤紀二公及囚律師等初沙弥幾皇帝逝
駕汾裏藤公從之辞職紀守亦憂越前
今上膺竟揖讓駒舜寶圖照玉燭子二儀
撫赤子於八嶽簡伴平章事國道代檢國

事亟拔藤廣任判史西公換校池事於雪
青鳧引堀數千之馬目聚赤馬驅人百計
之夫夜集既而車馬轟々而電往男女礙
々而雷歸土雰々而雪積堤倏忽而雲騰
究如靈神之挺埴還疑洪鑪之化產成也
不日畢也不年造之人也辭之天也爾乃
池之為狀也尤龍寺右鳥陵大墓南聳畝
傍北峙禾眼精舍鎮其艮戟遮荒壠押其
坤十餘大陵聯綿虎踞四面長阜邐迤龍
引雲蕩松嶺之上水激檜隈之下春繡映
池觀者忘歸秋錦開林遊人不倦鴛鴦鳧
鴨戲水羨歌玄鶴黃鵠遊汀爭舞龜鼈延
頸鮒鯉掉尾淵頻祭奥林鳥反哺泊如積
水含天疊山倒景深深也似海廣也超涯笑
見明之非儔哂耨達之猶竹虎嘯鼓濤則
驚汰沃漢龍吟決堤則容與不飽襄陸之
周象不得溢其塘燋山之女魃不能涸其
戚六郡蒙潤萬澮湯々一人有慶兆民賴
之舞之蹈之詠子箱以擊腹手之足之唱
万歲而忘力歎蒼海之數變索鉛刻半余
筆貪道不支當仁固辭不能謀虛吐章迺
為銘曰
希夷象帝　一末萌　盤古不出　國常無生
元氣倏動　葦芽乍驚　八風扇鼓　五才縱横
日月運轉　山河錯峙　于岩森羅　萬物雜起
藤膚既隱　稷秫爰始　天地人地　灑霑切似

前亮後禹　慮厚恤人　智略廣運　慈悲且仁
機事不測　成功若神　潤物如雨　榮人似春
綸緻雷震　有司創功　紀麻羅草　景績圓豊
伴相施計　原守在公　良才奇術　民具飛風
爰有一坎　其名益田　掘之人力　成也自天
車馬霧聚　男女雲運　歸来似子　旱功不年
深而且廣　鏡徹紺色　滉瀁瀰漠　膽望罔極
百溪之宗　萬派之職　魚鳥泳泳　虬龍斯匿
吹漕汎溢　留畜播殖　蓼蓼我稻　穟々我稻
如抵如京　足兵足食　井田我事　堯帝何力
屯倉百万　屯倉百万　天乃米廩や　日本紀　秋日本紀　延

寶七年辛巳一千五百四十二年歟

民間宿禰　祢墓

姓靈集釈曰益田池乃堺よりとく〳〵今十七代の孫八人皇十七代仁德天皇七十八年より辛亥より日本紀歟ゆゑ伝て柳宿禰祢と人皇八代孝元天皇乃孫男民雄心命乃子より代〳〵乃帝より伝て氏姓録より凡一千二百九十年歟

延寶七年辛巳

鳥屋村

池庭村堺より屋村と云

雄畧天皇十年九月身狹村主青と呉人

乃鐵二鉾をなる統笠めして山鏡紙水間
君の大蟹死しの水間乃君橋十羽と春雪
人と成りて罷をこのかうと紀天皇ゆる
給ひしこの乃多紀輕村磐余村二ありて
飼給ひしより日本紀 寶七年点九一千百廿三年歟

輕 茶目村の良

万葉 天とぶや輕乃道より玉田水鄙史と乃行く
あさもよひ紀川よ入出真土山こ西ゆん
同 天とぶや輕の社乃斎槻幾世までわれ乃仕へまつらむ

輕境原宮

帝王編年曰輕大路乃西方ニ今見
ゆる大道乃西天神乃宮わりその西

俗よりの紀ちこもゆふ山西よ行とうん
人皇八代孝元天皇四年三月都紀輕乃地よ
うつし給ひしこ境原宮とぞ号そうきてこう
日本紀 延寶七年点九一千八百九十年歟

輕曲渡宮

輕乃町より西南五町ばかりを渡て西
地よ西ばかりあさと俗うぶ西ばかり西
乃の作家ゆ山へこう

人皇四代懿德天皇御宇二年正月都紀
輕乃地よう作しこ給ひしこ曲渡宮と号そうき
こうと日本紀 又輕境岡宮ともゆふ古事紀 延寶
七年点九二千百八十八年歟

輕潟明宮

帝王編年曰宮市帝と云くと云ばなり
云まつ
應神天皇御宇四十一年二月明宮ゆゝ遷
なり給ふ此年百十一歲日本紀又百卅歲古事記
延寶七年庚戌一千三百七十年
新六佑
輕池の明宮のもとうしろ所にあり乃池
輕池 大輕と云ふ所に池あり
應神天皇十七年十月に池を作り輕池と号
日本紀
作り 同十年輕乃市始めて市を作り
日本紀
古事記合
師兼于首
引まのうへ井はさはん道をわたる人命を輕の市人
法論寺

緣起曰豐浦寺乃西茅田寺乃東なり
今乃なるより茅田寺乃東なり
草堂の藥師如來は寺乃後なり緣
起曰推古女帝乃御宇に蘇我大臣
遣唐使として慶雲宗皇帝の法宮
則天皇后より法門を傳ふ乃也
年齡八十餘にして推
古天皇御宇乃戊子乃年也それより
女二年庚申より高宗皇帝乃位永
徽元庚戌年也それより十一年を經
て則天皇后乃位聖元甲申乃年
也後乃人はぐくみよりて緣起乃
同じ所にあり

法輪寺又ハ輕寺先世四代推古女帝乃御宇ニ
遣唐使賀留大臣玄理もろあり〳〵ハ御
則天皇后の弟敬乃素師如来ゑ御そうり
けりこれ靈驗異驗をあらはすこと〳〵
宮女御ゆりて御ゆるゑ像ゑ御ぬきて
ゑ〳〵来朝ゑ〳〵後ハ南寺御遊覧〳〵この
の像をゑへなりるり世ゑ代舒明天皇の
御宇ニこれ〳〵遣唐使ゑり〳〵このハ則天
皇后乃命ゑりて遣唐使大臣ゑ〳〵わり
き面像をゑ〳〵ハ燈臺をゑ〳〵ゑ〳〵せゑ
ゑ〳〵やり〳〵失をゑ〳〵この〳〵けりせ給ひゑ
世の人燈臺鬼とぞゑ〳〵ひゑ世ゑ代皇極天
皇乃御宇ニ乃大臣乃鎌乃足ゑ〳〵ゑ〳〵宰相

玄光ハ遣唐使ゑり〳〵御燈臺鬼ゑ御ゑ〳〵
ゑ〳〵ゑ父ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵乃事ゑ
ゑと御ゑり〳〵ゑ〳〵ゑ父ハ鎌足乃玄光
〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵
詩句をゑ〳〵ゑ〳〵ゑ父ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵
ゑ〳〵ハゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵
ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵
ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵
ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵
百戸世年をゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵

陵

燈明寺御ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵
ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵
町ゑ〳〵十町南ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵

檜隈川

寺枕田河内国ゆとうの異説あるべども
宣化天皇乃皇居檜隈庐入野宮大
和国や皇よりうく大和国よりうく
もやまとあり雷取山乃ゆよ檜隈村より
村の西よ檜隈川わよりのぼり行水上
亀岩と言ふ
ゆとあり言ふもとあむうらわくを檜隈川の水流
万葉
佐味隈
ちびのうまの檜隈川よりの為て詠の水入和をよそよ
檜隈廬入野宮
乃入
檜隈川乃急とんて俗と
ゆうれ文よ檜隈川乃急とんて俗と
ぜとも南世和名抄ぜ今乃檜隈村は

人皇廿九代宣化天皇元年正月都を檜隈
廬入野よりうつして宮乃名をかぐめ給ひ
日本紀延寿七年点凡一千百四十四年か
檜隈乃入野の宮
弁化ひの入野の宮ハ日本川郷と云ふて光後
弥もひても
欽明天皇陵
山郷よりおくく陵俗ようゆる紀文ハ
よんく俗ぜとも今ようんわてまんて
ぜ後の人おくうあ証ぜ
沢ようるもとの
人皇卅代欽明天皇ハ大和国高市郡檜隈
坂合陵なり延喜御宇卅二年四月崩御
ゆと俗人しゆ九月山陵ようくしなる日本紀

延賓七年歟一千百九年歟

檜隈陵 上大柱

推古天皇廿八年十月砂礫をもつて檜隈陵上に葺をもつて則めぐりに垣をつくる

山城国人大柱紀山乃乃人

大和国人大柱紀山乃乃人

上宮聖徳法王帝説 上直

ぐれ〳〵 推古紀に云 漢坂上直をして其柱を大柱乃直といへる類聚国史 是を御文欽明

天皇乃陵なりや 俗りうん ぞ

天武天皇陵

或記曰清見原村にて寺ありて里

ぐうり西に陵ありとそ

人皇四十代天武天皇八大和国高市郡檜隈

大内陵 延喜 朱鳥元年九月に葬御ありて

しゐ持統天皇元年十月に皇太子公卿百

官人等代りつまこしをもつてびに諸国乃つ

さ〳〵国造百姓乃男女海ぐ地乃をもつて大内の

陵をすぐめてそなぐ

乃はこの陵はこのうへ殺ひ〳〵二年十一

年迄九百九十四年歟 日本紀 延賓七

持統天皇陵

人皇四十一代持統天皇八大和国高市郡檜

隈大内陵なり 延喜 大賓二年に葬御ありて

後ひ〳〵同三年十二月飛鳥国にて崩

ぬ乃ぐりを後の帝王乃火葬乃そなぐ

海〳〵海を天武天皇乃陵に合葬しなる

後日本紀 延寶七年九百八十八年歟

文武天皇陵

人皇四十二代文武天皇八慶雲四年六月ノ崩御
なり後ひ〳〵十一月ノ葬
なり〳〵なり二十日檜隈安古山陵ノ
ようなり

後日本紀 延寶七年九百九十六年歟

表備姫王墓

表倭姫王ハ大和國高市郡檜隈陵ノ延喜式
表備姫王ハ皇極天皇ノ母公蘇我淳王ノ女
なり

堅塩媛陵

皇大夫人堅塩媛ハ推古天皇廿年二月ノ
檜隈大陵ノ改葬なり類聚國史 堅塩媛ハ

欽明天皇ノ妃ニ
女ヤ用明天皇又推古天皇ノ母ニ延寶七
年歟一千六十八年歟

檜隈野 吳原

山伏ノ町ト齋取ノ塚トノ中間ノ
ヨ栗原ト云ふ所アリ吳原ノ所
言なりや

人皇十六代應神天皇廿七年二月吳ノ遊
工女ヲ求メ給ひ百濟ヨリ勅使ヲ
ウハ持て則高麗國ヨリ〳〵ゴ吳ノ通
路ヲ求ル麗ノ國王ヨ奉〳〵れど人紀
波久孔志ノ二人導ヲ副〳〵より吳ヨ
ゆきつ孔きり吳ノ王ヨうゝし奉〳〵

きぞ工女より兄媛弟媛呉織穴織の四人の婦
女をぐし給ひきる類聚国史巻のありて婦女ぐしの
て織業を著帯ぐんよ日本紀大神工女をも
ひ給ひこのバ兄媛をなかりしをも
三人乃婦女を持ゝ津国武庫より著岸乃
時天皇為御ありて給ひぬきば大鷦鷯
よりて呉衣縫数屋衣縫より是ゝ
始まる日本紀二代雄略天皇十四年
正月身狭村主青等ども呉乃国使将
て漢織呉織ありびより衣縫兄媛弟媛を
なる住吉乃津よりて海る廿月呉客道
ゝ磯歯津路より通ハしぬきバ若ぎをて
呉坂とぞ名ひけり三月臣連よみとり

ありて呉使をむかひゝ檜隈野より御ゝ
衣所をゝ呉原やぞ名ひけり日本紀推古十
四年より延寳七年辰丸一千七十四年歟

法鴻寺

法鴻乃町より東七八町古堂一宇四町バ
ゝりひゞよのゝりて開山石婚ありて
法鴻寺を天平寳字四年三月報恩沂弥
ゝ法ありる市郡法鴻乃神河乃ゝりよ
伽藍を造建一丈八尺乃観自在菩薩
の像ゝりびより四大天王乃像ゝ
て法鴻寺とぞ号ゝ報恩沂弥ハ
ゝ十人ゝりて家を造る三十乃ゝ
吉野山よりて観世音乃兜を持ゝ居

延暦寺のごとくに霊験をえ給ひしより天
平勝寶乃帝の治ものやこと又長岡の宮乃帝の
ともあやしく病なども加持よりてを
わらひ根本咒ものとなへて
よなをりしうばが験乃ものより得度乃
者と給りしうども辞して本山よりの
又ひとり乃風聞をとして給ふあをひて
徒歩宮中よ入きりけるよ封戸給
りけり後延暦十四年六月遷化ものより 釈書
報恩と延鎮ハ同人異名なり 釈書 真興法
師ハ寺よ住おりしが後の人ハたりとみて
子鴻乃先德とぞ伝ひをる伝を釈書よあり
檜隈寺

天武天皇朱鳥元年檜隈寺軽寺大官大
各封百戸世年をうばり又巨勢寺封二百戸
と御寄附あり 日本紀
寺等乃盛觸ばらに
をうばべし
竹取
南世鷹取やうを詞林採葉曰竹取
乃翁乃田跡ハ南世大和国よ竹取乃郷
やてとをうばしきあるし是ハ
やをうく竹取物語乃翁ハ後河国大綱
の里乃住しとなるバ別人なるべ
竹取乃翁と竹ふあるとをうり秋乃春乃月よ関よ
のぐりてなぐめけりよ九人乃過女よあり

とり歌
（万葉）死ばこそわひしんぞわらめ生てわらばの髮ゑ結ぶよ
又ときめ名るの乃ゆあるの歌九首あり系しくは
万葉集よりくは俗る今このとうあのうらとも
のなり

壺坂寺　寺領四十五石六斗

壺坂寺と又南法華寺と（拾芥抄）ハ本尊
千手観音菩薩ハ道基上人乃造置なり
（拾芥抄）開基ハ元興寺海辯僧正とハ
ども帝王編年曰文武天皇大宝三癸卯
依伯姫足ゑ乃尼善心とハ高市郡
南法華寺を建立ハ寺元来靈

験乃蘭若ゑ乃ばとて仁明天皇嘉祥十四年
十二月ゑ定額なり
やゑ乃宣下あるべし（続日本後紀）
現ハ吉野川赤根ゑ乃郡乃龍神
やゑなり

壺坂より八町ばかり東ゑ乃香山と云
所ゑ五百羅漢あり
羅を彫ゑる石あり
（万葉）西乃曼陀
蘇我河原

八木より十ゑ町西ゑり蘇我村乃西
乃ゑり蘇我川ゑ乃ゑ水上
を越智と云ふ所ゑ諸方乃川流合
やゑいへり山所ゑ蘇我良乃家地あり

伝きる十三四町ハよ穢我乃風紀乃
麻わりち西乃社ハ入鹿の大臣乃霊や
穢と宗やとうゝひ明るゝ　類聚国史
萬葉集等よ宗我とうをり
真菅右宗我乃川の水ハ鳴瀬の世こ者くゝハ
勾金橋宮
曲川村皇居乃地といゝり穢我ゝり
乾四町ゝゝり
人皇廿八代安閑天皇元年正月都を大倭の
国勾金橋ようにして宮乃若とけゝ給
ひゝり　日本紀　又勾之金箸宮　古事記　山陵ハ
大和国金琴山権現是なり　正統記　延賓七
年ゝ一千百四十六年歟

太玉神社
安房ゝ地ゝよ　舊支紀　今ゝ
不ゝ
ゝる市郡坐太玉命神社四座　延喜式　太玉神ハ
天地剖判乃ゝ天神ゝ天
御中主神ハ　高皇産神ハ　神産
霊神　古語拾遺　高皇産霊神　接幡千々姫命　天祖
天孫
古語拾遺ゝ神代巻ゝ
天忍日命　大伴宿祢ハ　天太玉命　斎部宿祢ハ
国本天皇陵ハ
国本宮御宇天皇陵ハ大和国ゝ市郡ゝ
利　延喜式　或　抑白文武天皇乃御父ゝ
知皇子ゝ又ハ草壁太子ゝ也又ハ国本天

皇[illegible]

高市宮

藻璨抄 大和國倭名類聚抄云高市郡

万代集 [illegible]

高市社

高市社と云は南倭飛鳥社と云ふ 舊事 夏高市

御縣坐鴨事代主神社と神名帳よりの也

所生[illegible]是なり 大己貴神高降怪と娶給

[illegible]生御子 給ふ都味歯八重事代主神よ

[illegible] 舊事

▲神階ハ貞觀元年正月廿七日從一位ヨリ叙

[illegible]元 三代實録云[illegible]

高市郡神名帳五十四座 延喜式

高市御縣坐鴨事代主神社

飛鳥坐神社四座

宗我坐宗我都比古神社二座

耳梨坐神社四座

飛鳥山口坐神社

畝火山坐神社

稲代坐神社

[illegible]代坐神社

高市郡御縣神社

鷺栖神社

巨勢山坐石椋神社

天高市神社

樹村坐神社

[illegible]田神社

太玉命神社四座

櫛玉命神社四座

加夜奈留美命神社

飛鳥川上坐宇須多伎比賣命神社

吳津孫神社

東大谷日女命神社

氣都和既神社

[illegible]侯神社三座

大歳神社二座　波多神社
御歳神社　於美阿志神社
瀧本神社　鳥坂神社二座
天津石門別神社　許世都比古命神社
波多堀井神社　久米御縣神社
氣吹雷鳴雷吉鳴雷　大國御魂神社三座

和州舊跡幽考第十六卷終